

VII 看護補助者の業務

1. 看護補助者が行う患者への 直接ケア業務

看護補助者を病棟に配置している病院について、看護補助者が日常的に行っている患者への直接ケア業務をすべて選ぶ方法で回答を求めた。その結

果、すべての項目について前回調査と比較して「行っている」という回答が増加した（表22）。

病院種類ごとに見ると、「老人病床を主とする病院」ではほとんどの項目について広範に看護補助者が関与しており、これと比較して「総合病院」「特定機能病院」では看護補助者が行ってい

表22 看護補助者による患者への直接ケア業務（複数回答）

<実施項目>	回答病院計		再掲:老人病床を主とする病院※	
	1995年(2742)	1991年(2471)	1995年(169)	1991年(153)
他科受診・検査・リハビリ室への輸送	82.8%	76.6%	87.0%	74.5%
入浴・シャワー介助	82.4	72.7	98.8	92.8
食事介助	81.9	70.8	98.8	90.2
寝衣交換	71.8	62.1	97.6	86.9
排泄介助	69.9	57.8	97.6	87.6
洗面介助	69.3	55.4	97.6	81.0
おむつ交換	66.2	53.6	97.6	86.9
全身・部分清拭	62.8	48.3	95.3	77.8
患者の話し相手	61.5	48.7	94.7	72.5
歩行介助	59.1	50.3	91.7	68.8
体位変換	56.2	39.4	94.1	74.5
口腔清拭	48.9	32.5	87.6	67.3
作業療法・リクレーション時の付添い	42.3	39.2	79.3	53.6
不穏患者の安全確保	23.5	15.6	60.9	43.8
その他	2.8	2.2	7.7	5.2
おこなっていない	4.3	5.9	—	0.7
無回答	2.2	4.2	0.6	2.0

()内は回答病院数

※「老人病床を主とする病院」: 1991年調査では「老人病院」

る項目は少なく、「一般病院」「その他の病院」は両者の中間にある《統計表第183表》。

なお、看護補助者の業務について、業務手順・マニュアルを「作成している」病院は75.5%、「老人病床を主とする病院」に限ると78.7%である《統計表第185表》。

2. 看護補助者への研修

看護補助者を病棟に配置している病院について、看護補助者に対する研修項目を尋ねた（表23）。前回調査と比較して研修を行っている病院の割合

がそれぞれの項目について10ポイント以上増加している。

3. 看護補助者の患者直接ケア関与に対する看護部長の意識

看護補助者が患者への直接的なケア業務に携わることについての看護管理者の考え方を表24に示す。前回調査と比較して「直接ケアは行わない」という回答が4.8ポイント減少し、「患者の状態によっては看護婦の判断のもとに単独で行うことができる」という回答が7.9ポイント増加した。「老

表23 看護補助者に対して実施している研修内容（複数回答）

	1995年(2742)	1991年(2471)
業務内容の理解	80.1%	70.4%
事故防止・感染対策	78.1	65.8
接 遇	75.6	64.9
実 技 実 習	61.6	43.9
業務倫理・プライバシー	57.4	44.5
そ の 他	4.6	3.2
研修は行っていない	6.5	10.0
無 回 答	2.7	6.2

()内は回答病院数。

表24 看護補助者の直接ケア業務についての看護部長の考え方

<実施項目>	回答病院計		再掲: 老人病床を主とする病院**	
	※ 1995年(3026)	1991年(2578)	※ 1995年(178)	※ 1991年(170)
直接ケアは行わない	7.2%	12.0%	1.1%	3.5%
看護婦の指示のもとに参加	59.9	63.6	44.9	64.1
看護婦の判断により単独で実施	29.1	21.2	51.7	29.4
無 回 答	3.8	3.2	2.2	2.9

()内は回答病院数。

※「老人病床を主とする病院」：1991年調査では「老人病院」

表25 看護補助者が日常的に直接ケアをする場合に問題と思われる点（複数回答）

	回答病院計 (3026)	再掲：病院種類			
		一般病院 (1336)	総合病院 (838)	特定機能病院 (68)	老人病床を主とする病院 (178)
教 育	39.1	37.6	34.1	39.7	56.7
能力・体力に問題	35.2	32.6	36.5	38.2	46.1
業務管理	29.0	29.0	29.1	30.9	32.6
業務分担の明確化	27.9	28.3	25.2	19.1	25.8
看護婦の指示によって業務を行う体制作り	22.0	22.7	19.8	5.9	21.9
補助者の採用で看護婦人員が抑えられる	14.2	12.4	21.4	19.1	11.2
採 用	6.3	5.9	7.0	16.2	3.4
そ の 他	2.8	2.2	3.2	5.9	2.8
特 に ない	8.9	10.6	7.6	5.9	7.9
無 回 答	5.2	5.5	4.3	2.9	2.2

()内は回答病院数。

人病床を主とする病院」の看護部長については、「患者の状態によっては看護婦の判断のもとに単独で行うことができる」という回答が前回調査より22.3ポイントと大幅に増加し、今回調査では半数を超えている。

「老人病床を主とする病院」では病棟配置看護要員の半数以上を看護補助者（介護職員）が占め《統計表第23表》、実質的にケアの主たる担い手となっているが、看護部長の回答はこのような実態と看護補助者との協働の実績を踏まえてのものと推測される。それ以外の病院においても、看護婦

による指示・判断を前提に、看護補助者による患者への直接ケアの実施により肯定的な意見が増えている。

一方、看護補助者が患者への直接ケアに携わる上での問題点として「教育が難しい」39.1%（前回調査27.4%）、「能力・体力に問題がある」35.2%（同23.0%）が上位に上がり（表25）、かつ前回調査と比較してそれぞれ10ポイント以上増加した。多様な背景を持つ看護補助者への教育の重要性がより強く意識されているといえるだろう。